



最先端の科学を体験して将来の夢を広げる

当市の農畜産物を、観光資源と共に全国に売り込んでいくため、「地産外産」の取り組みを展開します。さらに、首都圏などで情報発信や販路の開拓を継続し、一関ファンに拡大に努めます。

林業は、一関地方森林組合の組織力を生かした木材生産コストの削減や地元産木材の利用促進への取り組みが期待され、当市の林業振興施策などと連携し、林業振興と木質バイオマスなどの森林資源を活用していきます。

●観光の振興
餅文化は、全国ご当地もちサミットや各種イベントなどで、引き続き全国に情報発信し「2015年ミラノ国際博覧会」で、餅つきの実演と振舞いによるアピールをします。



一関・平泉バルーンフェスティバルを全国に発信

一関・平泉バルーンフェスティバルは「2015熱気球ホンダグランプリ」として開催し、全国各地ビール

災害対策基本法に基づき、自ら避難することが困難な方々の名簿を整備しました。

地域の避難支援等関係者と情報を共有し、支え合いによる災害時の避難支援や日頃の見守りなどを促進します。

また、土砂災害から住民の生命及び財産を守るために、関係機関と連携し、危険箇所の点検を実施します。さらに、土砂災害ハザードマップを作成し、土砂災害警戒区域等の情報や警戒避難体制を周知します。

⑦未来のまちづくり

●I・L・Cを見据えたまちづくり
環境や景観への配慮や外国人研究者の受入態勢などについて検討

フェスティバルと同様に、東北を代表するイベントに育てます。

また、平泉の世界遺産と狛鼻溪、厳美溪などの周遊観光に向けた交通確保の支援や、仙台圏における観光キャンペーンを継続します。

②教育環境の充実

教育委員会制度の改正に伴い、市長と教育委員で構成する総合教育会議を設置し、教育の課題やあるべき姿を教育委員会と共有しながら、連携し教育振興を図ります。

私立幼稚園の保護者負担を大幅に軽減し、公立幼稚園との格差が生じないように配慮します。

学校施設の整備は、千厩地域の小学校の建設に向けて、用地取得、校舎建築の実施設計を行うほか、山目小プールと桜町中特別教室棟の整備、磐井中北校舎の大規模改修、東山中校舎の耐震補強などを進めます。

社会教育は、教育振興基本計画に定める施策の基本方向に沿って実施します。

③健康長寿のまちづくりの推進

私は、健康づくりは、イコール地域づくりだと考えています。

健康づくりは、高齢化社会が進んでいく中で、地域政策の中心となる分野です。高齢になっても、健康で日常生活を送ることができるよう、「健康寿命」を延ばすことで、本人だけでなく、家族、隣近所も幸福感を得られます。

このことが、地域の活力維持にも繋がりが、地域づくりにも結びつくこととなります。

健康に長生きする「健康長寿」を重視して事業に取り組みます。

●健康長寿のまちへ向けて

新一関保健センターを健康づくりの拠点施設とし、高齢者の健康づくり、こころの健康づくりを進めます。地域医療は、引き続き、医療機関の適切な受診のあり方の周知に努め、市民、医療機関、行政が役割分担や連携を強め、地域医療体制の強化を図ります。

また、医師修学資金貸付事業を継続し、医師確保に努めます。

介護分野でも、人材確保などを目的に、介護人材育成事業を実施します。特に医師確保は厳しい状況です。地域内における医療連携を強化し、診療所との連携、調整を図るため、地域医療の支援を担当する職を新設します。

障がいのある人に対しては、基幹相談支援センターと連携しながら、障害福祉サービスなどの提供体制の確保に向けて取り組みます。

高齢者が、気軽にニユースポーツに触れ合い、相互の交流を深めるための事業を実施します。

●国民健康保険

当市の国保運営は、引き続き厳しい状況が見込まれますが、27年度から、国の財政支援が拡充されることを踏まえ、国保税率等の引下げを行います。

ンと総合戦略の策定を進めます。

当市の財政の見通しについては、厳しい財政状況を見込んでいます。現行の行政改革大綱と集中改革プランを着実に実行するとともに、28年度からの次期行政改革大綱と集中改革プランを策定し、効果的に施策を展開していきます。

公共施設は、全ての施設を対象に、維持管理に関する基本的な方針となる公共施設等総合管理計画の策定を進めます。

私は、市長就任以来、市民の皆さんの声を直接聴いたうえで、市からの情報を発信するため、移動市長室を実施してきました。

また「市長へひとこと」などで、市民の意見を伺う機会のほか、市民参画の機会として、各種審議会の開催、ワークショップなどを設けています。人口減少が進む中であって、若者や女性の意見を聴きながら、まちづくりを共に進めていきます。

市民の皆さんとともに地域課題に対処するには、現場主義を徹底し、より市民に近い視点で市政を行うことが重要だと認識しています。

●組織機構の見直し

市民ニーズや行政課題に的確に対応し、政策の推進を強化するため、「市長公室」を、協働のまちづくりを推進するため「まちづくり推進部」を新たに設置します。また、「子育て支援、健康長寿のまちづくりの推進、組織の統合による事務の効率化、迅速化を図ります。

④芸術、文化、スポーツの振興

●芸術、文化の振興
市内の芸術文化団体や文化施設の指定管理者等と連携し、文化芸術活動を促進しながら、市民が優れた芸術に触れる機会を作ります。

●スポーツの振興

青少年の健全な育成や地域住民の健康を保持するため、教室やイベント等を開催するほか、競技力の向上と気軽にスポーツを楽しむことができる環境の整備に努め、国内トップレベルのプレーに触れる機会を提供します。

また、27年度には「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」のリアル大会が実施されます。各種団体や企業の協力を得ながら、オール一関で受入体制を整えます。

さらに、国内外の学会や会議、スポーツ大会等の当市での開催誘致に取り組みます。

⑤環境対策

住宅用太陽光発電システムの設置を促進するほか、公共施設への太陽光発電システムの導入や防犯灯などのLED化を進め、新エネルギー・省エネルギーの取り組みを進めます。

また、低炭素社会の実現に向けた意識啓発に努めます。

ごみの減量化、資源化は、小型家電の回収を推進するほか、資源集団回収事業などの活動を支援します。不法投棄やポイ捨ての防止を

●県境ならではの施策

現在、県境周辺の地域から、県の中央部に、国の機関の集約が進んでいます。このままでは、岩手・宮城の県境を挟んだこの地域は国の機関の空白地域となってしまうます。県境付近の自治体は、多くの共通課題を抱えています。

一方、あらゆる分野で、一つの施策やサービスが一つの自治体で完結せず、県境を越えた近隣市町村と連携した取り組みが欠かせません。

人口減少など社会構造の変化に対応した施策の展開や地域の発展のためには、同一の経済圏、同一の生活圏、同一の医療圏、同一の通勤・通学エリア、さらには同一の伝統文化などの圏域で、県境を意識しない発想での取り組みが必要です。

宮城県登米市、栗原市、さらには秋田県湯沢市、東成瀬村との連携も視野に入れ、新たな連携強化に取り組みます。

県境に接する一関だからこそ可能となる施策に取り組めます。

おわりに

I・L・C計画が実現すれば、この地域には世界遺産「平泉」と共に、世界に誇れる二つの大きな宝物ができます。

私が、学校で講演すると、子供たちの心の中で、I・L・Cへの期待が確実に膨らんでいることを実感しています。次代を担う子供たちが夢と希望と誇りを持ち、活躍で

するなど、住みよい快適なまちづくりを進めます。

さらに、空き家等対策計画を策定し、利活用を含めた対応策などを検討します。

⑥防災のまちづくり

地域防災計画に基づき、大規模災害に備えた訓練を行うほか、毎年3月11日の「となりきんじょ防災会議の日」や自主防災組織のリーダー育成支援の継続など、防災意識の高揚を図ります。

防災情報は、防災行政情報システムやコミュニティFM放送など、多様な広報媒体を活用し、迅速な情報提供に努めます。

また、一関南消防署藤沢分署の建設を進めます。消防車と消防団車両の更新や、消防団の活動が理解されるよう、情報発信などに努めます。

●一関遊水地事業

一昨年12月に第一遊水地大林水門が、昨年11月には第二遊水地長島水門が着工され、順調に事業が進められています。小堤と水門の整備促進と併せ狭隘地区の治水対策を促進します。磐井川堤防改修に伴うまちづくりは、国土交通省と連携しながら進めます。

また、JR東北本線磐井川橋梁架け替えに向けた早期協議の要望を継続します。

中小河川の治水事業は、一昨年7月の大雨災害を教訓として、関係機関と連携し、対策を進めます。さらに、庁内における危機管理

きる地域となるよう東北全体が一丸となって、I・L・C実現に取り組みで行くよう、これまでも増して強い信念で取り組みます。

自然と共生し、資源が循環する、世界最先端の技術が集積するまちを創造するとともに、地域住民と研究者やその家族、そして来訪者が文化的な交流を図り、互いに絆を深めていくことにより、一関が、日本と世界とを繋ぐかけ橋となる「世界の人々から親しみを持たれ、信頼される地域」となるようそのようなまち「一関」を、必ずや実現していきます。

I・L・Cの実現は、今を生きる私たちに課せられた大きな使命だと思っています。

未来に向けて、積極果敢に挑んでいく覚悟ですので、議員各位並びに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



夢と希望に満ちた未来を創造します